

# CTGの建交労 とちぎ

発行所 全日本建設交運一般労働組合  
栃木県本部 〒327-0315  
栃木県佐野市吉水駅前1-2-1  
0283-62-7312 fax 0283-62-7318  
<http://www.kenkourou.or.jp/>  
E-mail: DQJ06744@nifty.com

## 台風19号による大規模水害 組合関係者の被害も広域に



秋山川の決壊現場。堤防の強化や浚渫など多くの課題が明らかに。

台風19号によって、県内でも多くの被害が発生しました。佐野市では組合事務所から約6km南にある秋山川の堤防が決壊し、組合関係者も住宅の浸水など被害が発生しています。被害を受けたみなさんに、あらためてお見舞い申し上げます。宇都宮市、鹿沼市、足利市、栃木市など広い範囲で水害が発生しており、まだ組合関係者の被害がすべては把握できない状況です。大変なところ恐縮ですが、被害にあった組合員は組合事務所にご一報ください。



関根建設様のご協力により2tダンプを借りて土のう運搬



組合では地域住民と泥出しなどに取り組んでいます



ボランティアセンターでは対応できない解体作業も。



水圧で押し倒されたブロック塀の撤去作業

ボランティア活動参加可能な人は組合事務所までご連絡ください。ボランティア保険料は組合が負担します。

現在行政による災害コミ、土のう袋の運搬が滞っています。組合では運搬支援に使用する2tダンプかトラックを貸していただける方を探しています。ご協力お願いします。

# 台風被災者への支援制度 組合で相談を受け付けます

## 【被災者生活 再建支援制度】

台風19号で県内の多くの自治体に「災害救助法」の適用が決定し、住宅の被害程度に応じて、最大300万円の被災者生活再建支援金が支給されます。支援金の使途は限定されています。ただ対象は住宅が「全壊」または「半壊」し、その住宅をやむを得ず解体する場合など限定的です。申請は市で受け付けます。申請期限は災害発生時から13か月以内です。被災時に住居していた世帯が対象のため空き家等は対象外です。

## 【災害救助法 修理制度】

住宅が「半壊」し、自ら修理する資力のない世帯にたいして、住宅の居室、台所、トイレなど日常生活に必要な最小限度の部分を急的に修理する制度です。被災者が依頼した業者(自治体指定業者)が市に見積を提出し、市が業者に工事を依頼、工事完成後に市が費用を支払います。最大59万5千円分。

## 「一部損壊」も対象に しかし床下は・・・

9月に発生した台風15号により、千葉県内を中心に屋根の損壊が多数発生しました。雨漏れによって生活できない現実を踏まえ、一部損壊でも災害救助法が適用されることになり、最大30万円が支給されることになり

ました。しかし、床下浸水については、いまだ適用が厳しい状況です。大量の泥が流入したままの住宅が少なくありません。住宅の保険も多くが床下浸水だと適用にならないため、全額自費

【ボランティア  
アの支援を】  
10月23日現在、県内では宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、那須烏山市でボランティア派遣を行っています。土砂やがれきの撤去などをお願いできます。各市の社会福祉協議会が窓口です。

【罹災証明の  
申請を】  
罹災証明は公に損害を証明するものです。県内では宇都宮市、足利市、栃木市、佐野市、鹿沼市、小山市、那須烏山市でボランティア派遣を行っています。土砂やがれきの撤去などをお願いできます。各市の社会福祉協議会が窓口です。

## 「助け合いこそ組合の役割」 台風直撃の直後大会開催

10月13日、建交栃木県本部第21回定期大会を代議員ら34人が参加し、組合事務所で開催しました。栃木県労連の阿波議長



山内委員長は「困ったときに助け合うのが組合本来の趣旨、被災した組合員をみんなで支援しよう」と呼びかけました。石井書記長は、トラック職場の3支部がダンブ支部の分会として編入することについて、組織強化が目的の再編であると提案しました。各支部が活動を報告、エアケミ運輸支部からは新しく加入した組合員が紹介され、参加者は大きな拍手で激励しました。提案された議案が採択されました。

## 個人レベルでは友好関係を 紹介 【柳宗夏(リュウ ジュンナ)さん】 【黄盛基(ワアン ソンギ)さん】

戦後最悪の日韓関係だそうです。マスコミやネットの無責任な情報に影響を受ける人も増えていきます。先日ある組合員が「韓国って国は・・・」といった「嫌韓」発言をするのを聞いて驚きました。

他国にたいする敬意、理解こそ求められています。私たちの組合には韓国の人もいます。今回紹介するのは、下野市にあるコンクリート製造工場で働く柳宗夏さん(54)と黄盛基さん(52)、二人とも韓国の民主化闘争が激しい時代に大学に通い、祖国の変化を見てきました。卒業後柳さんは宝石関係の仕事を経て95年に来日、黄さんは10年間の米国生活を経て09年に来日しました。

工場では、高層ビルの柱や公共物の大型コンクリート製品を製造しています。黄さん「いま韓国は与党の反日政策に国民が振り回されている。決して反日国民が多数ではない。ただ日本人と違い感情表現が激しいと思います。来日当初は日本人のあいまいな表現が理解できず苦労しました。いまは家族もみんな日本で生活しています」。



メディアの軽薄な「嫌韓」報道に惑わされずに、冷静に日韓関係を考えることが必要です。(左柳さん、黄さん)

国同士の関係が悪くても個人レベルで理解が進めば、両国の世論が関係を修復させるでしょう。戦争の芽は日常にあると思います。